

一人ひとりの想いつたえたい ▶▶▶ あなたの声でつくる情報誌

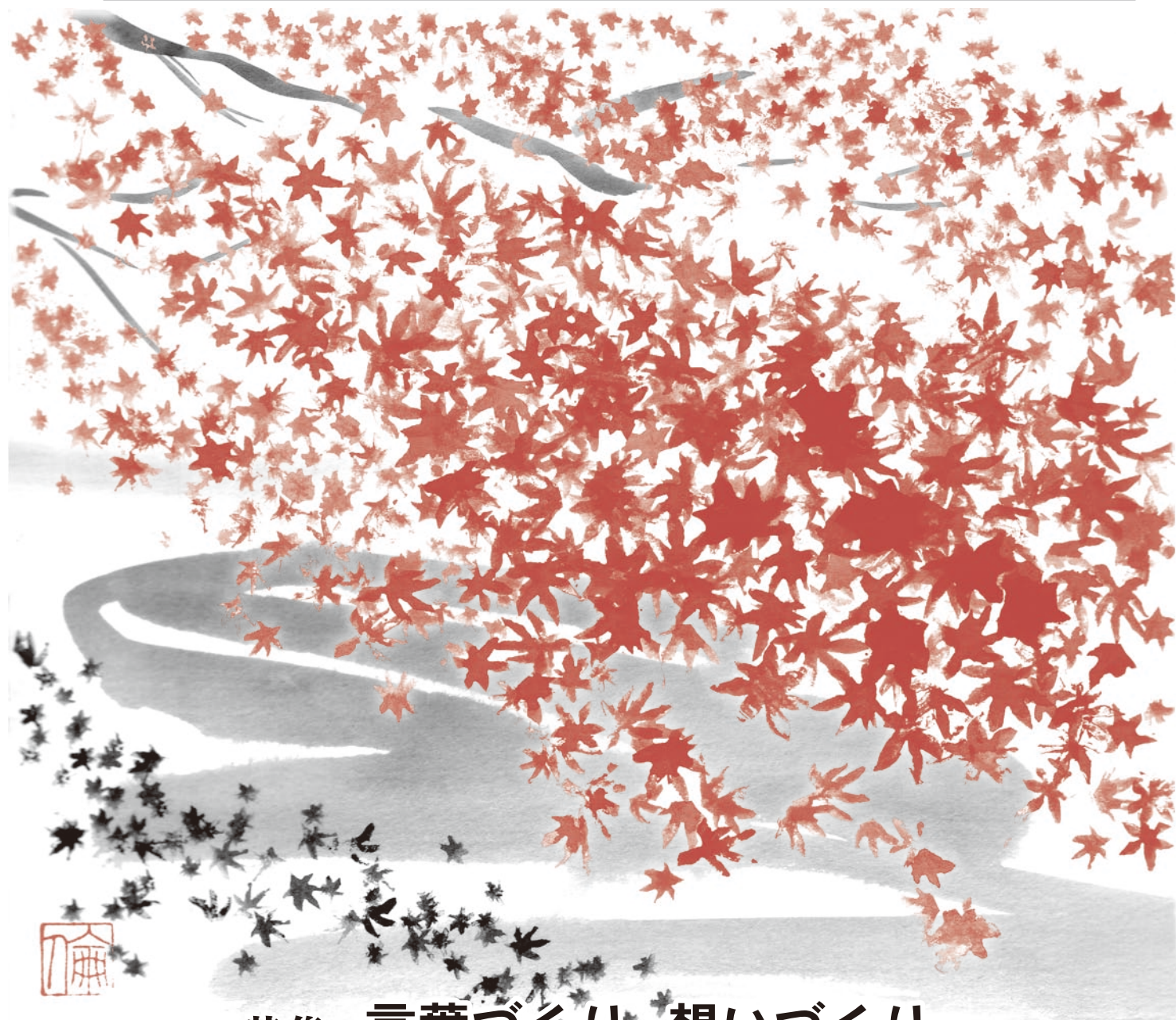
NO. 68

2007・秋号

まなこ

企画・発行

武蔵野市 企画政策室 市民協働推進課 男女共同参画担当



特集 言葉づくり、想いづくり

取材

- 短歌と私 ひとつの出会いから歌人の道へ
レポーター体験記 横山 未来子さん
清水 裕子
- 出囃子は「うさぎのダンス」 三遊亭 右左喜さん
- 植木職人の現場にとおる大きな声と簡潔な言葉 中野 朋代さん

寄稿

- ・ 私の快適パソコン生活「七つ道具で仲間をつくる」 まなこレポーター 堀江 幸夫

情報

- ・ 武蔵野市男女共同参画推進市民会議 ・ 女性に対する暴力をなくす運動
- ・ ドメスティック・バイオレンス(DV)とは 市民協働推進課 男女共同参画担当

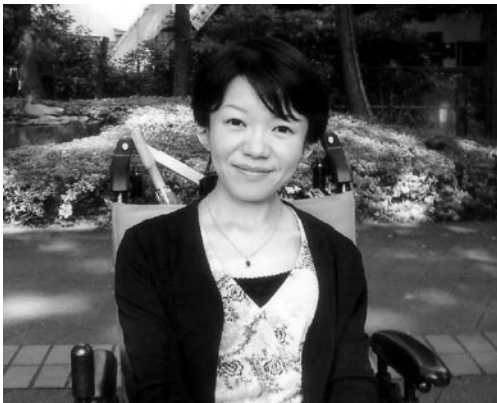
活字離れや日本語の乱れを指摘する声は多く聞かれますが、ブログや携帯小説などインターネット上の世界で文字に親しむ人は増えてきているように感じられます。言葉の使い方や言葉に対する想いは、年齢、性別、環境などによりさまざまですが、複雑さを増す現代の暮らしの中で人々のつながりを潤滑に進めるためには、「言葉の力」が大きな役割を果たすのではないのでしょうか。

いつもどんな言葉を書き、どんな言葉を話しているか、一度、あなたの言葉とのつき合い方を見直してみませんか。普段、何気なく使っている言葉にも、その人、その人のさまざまな想いが込められているのではないのでしょうか。

68号では、4人の方々の言葉との関わりを紹介します。古くから伝わる日本語の響き、頼もしく力強い職人の会話、インターネット上の言語など、彼らの語る生き生きとした言葉に、まずは耳を傾けてください。

短歌と私

ひとつの出会いから歌人の道へ



通勤途中のお気に入りの場所で

●プロフィール

1996年 第39回短歌研究新人賞受賞
1998年 「樹下のひとりの眠りのために」(短歌研究社)刊行
2003年 「水をひらく手」(短歌研究社)刊行
2005年 「セレクション歌人30 横山未来子集」(国書林)刊行
2007年 「花の線画」(青磁社)刊行
個人サイト「水の果実」
<http://www.007.upp.so-net.ne.jp/mizunokajitsu/>

みきこ
横山 未来子さん

吉祥寺本町

ひたすらに美しき秋われに来て
空をながるる蜘蛛の糸見ゆ

歌集「花の線画」より

「短歌」は私たちの日常とかけ離れていて、何だか難しいものを感じてしまいます。でも決してそうではなく、短い言葉の中に込められた想いは、誰の心にも優しく響くものだと横山 未来子さん(35歳)は教えてくれました。

「雪が降る様子も、じっと見つめていると、雪が止まって見えたりねじれて見えたりするんです。ひとつの情景を自分なりの言葉で表現したいのです」。

短歌との出会い

それは17歳のとき、偶然三浦綾子さんの自叙伝「道ありき」を読んだのがきっかけだった。作者は30歳で脊椎カリエスを発病。寝返りひとつできない不自由な生活を強いられながらも、ひとりの青年との出会いによって新しい生き方を見つける。その前向きになろうとする姿に胸を打たれた。そして、その思いのすべてが短い「短歌」に凝縮され、込められていることに深く感動したのだ。

幼い頃から体が弱く車椅子の生活をしている横山さんにとって、自分の人生と重ね合わせて共感し、勇気づけられる。心に迫るものがあつた。その頃は、NHK通信教育で学んだのち大検に合格したものの、これからの自分に何ができるのか、何がしたいのかを見つけられずにいた。

もともと絵や言葉、感性で表現することが好きで、詩のようなものを作っていた。詩は言葉も長さも自由だが、短歌は五七五七七という三十一文字の中で表現しなくてはならない。そんな潔さがかえって魅力に思えた、また文語の美しい響きにも魅かれたのだ。「やはり言葉が好きなのでしょね」。

広がった世界

20歳のとき、通信講座で真剣に短歌を学び始め、翌年には「心の花」(佐木幸綱主宰)という結社に入会した。そこですばらしい先生の教えを受け、たくさんの同世代の仲間もできた。それまでは、高校までほとんど自宅で勉強していたため、4つ年上の姉が唯一の友だちだった。でも短歌と出会い言葉を通じて、初めて互いに共感し学び合える仲間に出会うことができたのだ。その中でもひとりの友人は3人の子どもの母であり、環境も住む場所もまったく違っているが、何でも話せる親友となった。「私の短歌はどちらかというと地味でさらりと読まれてしまうのですが、彼女に『この表現が力強いね』と感じ取ってもらえると、とても嬉しく、励まされます」。

気がつくくと、小さかった横山さんの世界は大きく広がっていた。

ホームページを開いてからは、見知らぬ人からの温かい言葉をもらうようになった。新人の頃からずっと作品を読んでくださっている方、車椅子にのっている方、クリスチャンの方など……たくさんの方に励まされながら、会えたような喜びで言葉を返している。ホームページのデザインを義兄が、本の装幀(そうてい)を姉が担当している。父の運転や母の付き添いで自らも歌会へ出向くことができるようになった。恩師や仲間、友人、そして家族に支えられていることに感謝しない日はない。

もっと表現の幅を広げたい

「文語の歌はぜひ声に出して読んでみてください。意味はわからなくても音の響きは伝わってきます。好きな作品に出会えたら、その人の歌集を読んでみてください。それが短歌との出会いになるかもしれません。短歌は1300年以上続いています。一見難しく思える歌でも、そこに詠われている人々の想いは、昔も今も変わらないのです」。

現在は自宅からすぐ近い大学で週4日ほど得意のパソコンを活かして楽しく仕事をしている。それでも疲れると心の余裕がなくなることもある。そんなときは小説や詩などいろいろな本を読み、感じたことを摂取して、また新鮮な気持ちで短歌を作る。季節の描写はささやかな日常から生まれている。また、聖書や本の

登場人物から着想を得ることもある。

「昔はイメージのきれいな言葉が好きでしたが、歳を重ねた今は、派手さはなくても実感のある言葉を使いたいと思うようになりました。詠う対象についても、光と影の『影』の部分を見つめられるようになったと思います。これからはもっと表現の幅を広げていきたい。また、猫や

鳥や虫など小動物の、小さいけれど尊い命をテーマにした歌や、恋の歌も作り続けたいです」。

「毎年桜の歌を作るのですが、同じ桜のようであっても、その時々自分の状況によってまったく違う歌ができます。二度とない一瞬一瞬を大切にしたいと思っています」。

取材 戸田 真帆子(文)

キラキラした瞳に出会って

取材体験記

まなこレポート 清水 裕子 (写真右)

「まずは声に出して読んでみるといいですよ。そうすると、この言葉素敵な感じだなぁと気づいたり」。

私が短歌の味わい方を横山さんに尋ねたところ、こう答えてくださいました。今まで国語の授業でしか馴染みのなかった短歌。興味はあるけれど難しい文語に出会うと、そこでつまづいてしまいます。「短歌は1300年もの昔から詠まれているけれど、今読んでも時代を越えて共感できますね」。穏やかな笑顔で話す彼女の瞳はとても輝いていました。



現在は大学のマルチメディア教材編集室に勤務されています。忙しい合間を縫って歌を詠むのは大変だと思いますが、その時間がむしろ癒しになっているのだそうです。

昔からある短歌とパワーポイントやビデオの編集、インストールなどのマルチメディアという相反する分野に長けているのが、とても素晴らしいと思いました。

いったいこのきゃしゃな体のどこにそんなパワーがあるのか……。

私も子育てで忙しいとばかり言っていないで、自然や季節の移り変わりに目を向けられる気持ちのゆとりをもとうと思い、本屋へ立ち寄ってみました。偶然「俳句の花図鑑」が目にとまりました。それからは身近に自生する花、庭や花壇の花などの美しさを楽しめるようになり、今までの散歩道が毎日新しい発見の連続になりました。



でばやし

出囃子は「うさぎのダンス」

うさぎ

三遊亭 右左喜(小出 正彦)さん 緑町



落語家の右左喜さん

テレビの中ではお笑いブームですが、日本には古くから落語という笑いの文化があります。20歳のときに落語の世界に入り、前座から修行を積まれて、現在、真打として活躍されている三遊亭 右左喜さん(46歳)。

その落語家さんがご近所に住んでいらっしゃるというので、会いに行ってきた。

高校生の頃から落語を聴きに寄席に通いました。専門学校に進んだのですが、やはり落語の道に進もうと決心して、20歳のとき三遊亭 圓右師匠の門下になりました。

私の師匠は、前座に家事手伝いをさせるということはしません。前座は寄席に行つて出演者が仕事です。その間に、自分の師匠から落語を習いますが、ほかの師匠からも習うことができます。自分で努力しないとネタ数は増えていきませんが、この頃は遊びたい盛りです。一生懸命やらなければとわかっていてもつい遊んでしまいます。

私は圓右師匠の5人の弟子の中で5番目なのと、師匠の息子さんよりも年が下のこともあって、おかみさんには可愛がられています。何かあったときおかみさんは、師匠と弟子の間に入ってくれますし、師匠がしくじったら、やはりおかみさんが助け舟を出します。おかみさんにとって弟子は子どもみたいなものだし、一人ひとりの人間性も見ていますから、弟子への接し方もそれぞれ違います。



素顔の小出さん

取材 栗原恵子(文)

頼まれて、小学生や中学生に落語をすることがあります。中学生ぐらいになるとちよつと斜に構えるし、高校生になるともつと斜に構えるようになります。それに比べると小学生は態度がいいですね。高齢者にはゆつくりしゃべるように気をつけています。

落語は聴きながら頭の中で描いてイメージするものなので、同じ(はなし)でも、一回一回その場に合せて語るようにしています。テレビで落語を聴いていて「なぜ笑うんだらう」と思つても、実際に寄席に行くと、その笑いがわかって、空気を楽しむことができるんです。

今はいろいろな娯楽があつて、なかなか落語に到達しないこともあるのかもしれない。あるいは「落語は難しいんじゃないか」などと思つて食わず嫌いにならないで、若い人たちにも落語を聴きに来てもらいたいですね。

話し言葉のプロである右左喜さんに、言葉に対する思いを聞いてみました。



kurihara

Q 次々に流行語が生まれていきますが、どう思いますか？



usagi

今の流行語を「枕」で使うことはありますが、基本的にはあまり使いません。テレビなどで「ヤバくない♪」などと聞くと耳障りで嫌だなと感じてしまいます。新しい弟子も流行語を使うと師匠から直されます。

小学生のわが子も「すごくない♪」とよく言います。注意はしますが、しょうがないなとも思いますね。

Q 落語の中のおかみさんは口達者のしっかり者が多いと思うのですが、実際にはどうなのでしょう？



落語の中のおかみさんはしっかりしています。そうするといきおい、言葉はぞんざいになります。しっかりした旦那だと落語にならないでしょ(笑)。

ボケと突っ込みの関係で、落語ではほつとしたおかみさんには作っていませんね。私の師匠のおかみさんも、やはり、はきはきしていますよ。

Q

生活の中で伝えられてきた日本語が失われてきているというイメージをもっているのですが……。



先日も高校生に落語を語る機会がありました。そのとき「おひつ」や「おまんま頂戴」という言葉が出てきたんですが、そういう言葉を知らなかったんです。その意味がわからないから状況が伝わらない。昔の生活の中の言葉はまだ残っている、と楽観していましたが、これにはびっくりしました。繰り返しになりますが、若い人たちにもぜひ落語を聴きに来てほしいと思います。

「伸びた枝は最終形をイメージしながら、^{はさみ}鋏を入れます」



植木職人の

現場におおる大きな声と簡潔な言葉

ともよ
中野 朋代さん 吉祥寺南町

住宅街の庭や公園などで、女性の植木屋さんを何度か目にしていた。「男性の職場」とイメージされていた職種だが、その現場で作業する濃紺の粋な仕事着の女性たちだ。その中の一人、企業のOLから植木職人に変身！生き生きと働く中野 朋代さん(35歳)の公園や街路樹など、樹木と仕事への想いに深いものがあった。

街に私たちの作品がある

「私たち夫婦がまだ交際中だったとき、植木職人の彼が公園で作業をしているのを見ました。実に楽しそうな表情をしていたのです。『いい仕事をしている』と思いました」と語る。

「私もこんな仕事をしてみたい！と徐々に考えが深まり、思い切つて勤めていた会社を辞めました。そして彼と同じ造園会社に勤務。私は造園などの専門学校は出ていませんが、現場で草取りや下働きとしてスタートしたのです。毎日が真剣でした。嬉しかったのは、がんばった仕事に直接、先輩や依頼主の方から評価の声があり、還ってくるものがある“と実感できたときでした。やがて生垣などの刈り込みから始まり、庭木の剪定など先輩の職人から仕込まれ、専門書を読むなど、現場で実技、実践

あるのみ“の8年でした。そして「喜びは私たちが手がけた木を見上げたときです。街に作品ができ

職人は男の世界だった頃

中野さんは言う。

「先輩の女性植木職人に当時の様子を聞いてみました。彼女は『十数年前までは、ものめずらしさと現場に女性がいることの戸惑いがあったようです。でも、ときには女性の体力ではこなせない作業はごく自然に手を出してくれたし、女性の感覚を尊重されることもありました。仕事を覚えることに關しては本人の努力が活かされた社会だったと思いますよ』と答えてくれました。現場では女性も男性も当時から自然なチームワークができていたんですね。でも道を開いた女性たちの高い意気込みには感動しました。今のところ市内の女性植木職人は2人ぐらいです……」。

危険を伴う高木作業の決まりごとは？

「屋外で互いに距離をとっている危険な作業ですから言葉のやりとりは大切です。男言葉が原則で大きな声、簡潔に話す。専門用語を使うのは、聞き取りにくい、紛らわしい、を避けるた

枝下ろし作業中の中野さん。公園に大きな声のやりとりがおとる。



東京都 植木職・造園師の人数と内訳

平成 2年	男性6,802人／女性475人
平成 12年	男性8,359人／女性716人

出典：国勢調査報告

めのものです。例えば「入れる！しめる！」は高木の枝を下ろすときの綱を緩める、引っぱるという意味で、互いに大声をかけ合い、息を合わせる。緊張感のある言葉だけが行き交うのです。現場は事故があった場合を考えて必ず2人以上が組みになって仕事をします。

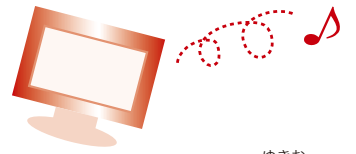
ときには夫婦でアドバイスも

「夫は造園技能士で、空師としています。また、数年前に樹木医試験に合格、一步一步と自分の夢をつかんでいます。私も国家試験である造園技能士(1級〜3級)は大きな目的で、今は学ぶことがいっぱいあります。」

取材 浜 俊子(文)



寄稿 私の快適パソコン生活 「七つ道具で仲間をつくる」



まなこレポーター 堀江 幸夫 ゆきお

生来の悪筆から、直筆でないと失礼かなあと気をもみながらも、電子メールで用を済ませてしまう。仲間ができると、すぐにパソコンで〈メル友〉(ML)を立ち上げる。学校、会社の同期会とか趣味の同好会とかでは、もっぱら〈メル友〉を構築、その一斉配信機能や、行事予定のリマインダー機能(設定した時刻に予定を通知する機能)を利用している。メールを持たない仲間には、〈ハイブリッドメール〉を使う。封書とほぼ同じ料金で、郵政公社が印刷して配達してくれる。紙もインキも封筒も要らない。いまや、メールアドレスを持たない人にも、メールと同じ感覚で連絡がとれる。

新しい仲間の募集には、〈ホームページ〉を活用する。「トシをとってから始める水墨画」「ホームズで遊ぼう

オトナの会」「日本書紀を読んでみよう」「パソコン・ボランティア研修の会」「パソコン傍らにダベる会」「志ん生を語りませんか」「篆刻の会」「親子で学ぼう!サイエンス」「養生気功・太極拳」などなど。それぞれ、活動報告、今後の予定、参考図書などを載せている。これらの掲載は、実は、人さまのためというよりも、自分自身に一番役立っている。会に出かける前に、自分のつくったこれらのサイトで日時、場所、会議内容を確認する。頭を整理したうえで、集まりに臨めるので、助かっている。

自分自身のため、といえば、ほかに日記、読書記録、山行記録、CD鑑賞記録、作文の作成保存、生涯学習実践記録などを、各々、個別専用〈ブログ〉に載せている。最近とみに物忘れがひどくなったので、ブログが、私の

大事な備忘録。いつでも、どこでも、どここのパソコンからでも、この備忘録にアクセスして頼りにしている。

このようにいろいろ便利な道具を愛用するが、むろん、直接会って話すことは、最も大切。「ママだね」とあきられながらも、早め早めに人と会う努力をしている。ただ、会うにあたっては、短時間に高密度の情報交換をしたい。事前に、これらホームページ、ブログをチェックし、記憶をリフレッシュしておく。これが、思わぬ威力を発揮してくれている。どうやら、私のことを、よほど物覚えがいいかのように錯覚する人もいるらしい。

〈Skype電話〉〈会議電話〉〈音声文字入力〉なども始めた。普通のパソコンで十分。これらお金のかからない文明の利器のおかげで、それほど頑張らないで仲間づくりを楽しんでいる。

まなこ68号アンケートから

『まなこ』のアンケートはレポーターを中心にお願いしています(レポーターは毎年3月に募集)

Q1 家族や友人など身近な人間関係の中で、どんな言葉のやりとりを大切にしていますか？

- ・ありがとう。ごめんなさい。
- ・おはよう。おやすみなさい。行ってらっしゃい。
- ・ただいま。お帰りのさい。
- ・ちゃんとごはん食べてる？
- ・がんばったね。(手と手をポンと合わせて) イーイー！
- ・お互いがんばろう。大丈夫！ 大切。
- ・幸せ。うれしい。うれしかった。いいことね。
- ・気をつけて。お大事に。
- ・身にしみました。おかげさまで。
- ・自分が言われて嫌なことは口にしない。

Q2 「書いている、書きたい」ことは？ それは何のため？誰に伝えるために？

- ・短くても心のこもった手紙 -----> ・お世話になっている方々や友人、両親に。
- ・携帯メール、パソコンメール -----> ・遠方に住む大切な友人、パソコンを習い始めた父、母に。
- ・プレゼントには一言メモを。年賀状の宛名は手書きに。-> ・肉筆の字の温かさを残したいから。
- ・素敵だなどと思った表現は、努めて書き留めている。-----> ・自分の表現力を豊かにするため。
- ・パソコンでのチャットや掲示板への書き込み -----> ・匿名の人たちが相手だが、アニメなど同じ趣味でつながっているので良いストレス解消になっている。
- ・3年、5年、10年などの通年日記 -----> ・周りに流されないよう自分の考えや改善点を確認するため。○年後に「今日の自分」を思い返してみたいから。
- ・家計簿の余白に息子の成長記録をメモ -----> ・日々成長していく息子の発達の具合を振り返られるから。
- ・家族の日記 -----> ・備忘録として。家族の誰でも書けるようになっている。
- ・育児日記(別名 <ちのつぼ>) -----> ・娘が反抗期になったら目の前で読ませるため。
- ・文章を書くサークルに所属。できたら小説を書きたい。-> ・自己表現の一つ。書く以上は人に読んでもらいたい。
- ・般若心経(写経) -----> ・尊敬していた、やさしかった義母のために。

■ 武蔵野市男女共同参画推進市民会議

同市民会議が8月に発足しました。会議では男女共同参画計画の推進に関する検証と武蔵野市第二次男女共同参画計画の策定に関して検討していただきます。市民会議委員は有識者、経験者と4名の公募委員の12名（女性7名、男性5名）です。月1回程度会議を開催し平成20年秋に報告書が提出される予定です。

■ 女性に対する暴力をなくす運動

暴力は、その対象の性別や加害者、被害者の間柄を問わず、決してゆるされるものではありません。特に、配偶者等からの暴力、性犯罪、売買春・人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為など、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服しなければならない重要な課題です。

毎年11月12日から11月25日（女性に対する暴力撤廃国際日）までの2週間「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されます。

相談窓口

- 市役所 0422-60-1852
(祝日・年末年始を除く月～金曜8時30分～17時)

- 東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455
(年末年始を除く毎日9時～21時)

- 東京都女性相談センター 03-5261-3110
(祝日・年末年始を除く月～金曜 9時～20時)

- 東京都女性相談センター多摩支所 042-522-4232
(祝日・年末年始を除く月～金曜9時～16時)

- 夜間・緊急の場合
警察(事件発生時) 110番
東京都女性相談センター 03-5261-3911

2007年7月に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の一部を改正する法律」が成立し2008年1月より保護命令制度の拡充等が行われます。

■ ドメスティック・バイオレンス(DV)とは

「ドメスティック・バイオレンス」とは何を意味するかについて、明確な定義はありませんが、一般的には「夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対しての暴力」という意味で使用されることが多いようです。ただ、人によっては、親子間の暴力などまで含めた意味で使っている場合もあります。

暴力の形態

一口に「暴力」といっても様々な形態が存在します。

①身体的なもの

殴ったり蹴ったりするなど、直接何らかの有形力を行使するもの。刑法第204条の傷害や第208条の暴行に該当する違法な行為であり、たとえそれが配偶者間で行われたとしても処罰の対象になります。

例) 平手でうつ／足でける／身体を傷つける可能性のある物でなぐる／げんこつでなぐる／刃物などの凶器をからだにつきつける／髪をひっぱる／首をしめる／腕をねじる／引きずりまわす／物をなげつける

②精神的なもの

心無い言動等により、相手の心を傷つけるもの。精神的な暴力については、その結果、PTSD（外傷後ストレス障害）に至るなど、刑法上の傷害とみなされるほどの精神障害に至れば、刑法上の傷害罪として処罰されることもあります。

例) 大声でどなる／「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」などと言う／実家や友人とつきあうのを制限したり、電話や手紙を細かくチェックしたりする／何を言っても無視して口をきかない／人の前でバカにしたり、命令するような口調でものを言ったりする／大切にしているものをこわしたり、捨てたりする／生活費を渡さない／外で働くなと言ったり、仕事を辞めさせたりする／子どもに危害を加えるといっておどす／なぐるそぶりや、物をなげつけるふりをして、おどかさ

③性的なもの

例) 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌をみせる／いやがっているのに性行為を強要する／中絶を強要する／避妊に協力しない

注：例示した行為は、相談の対象となり得るものを記載したものであり、すべてが配偶者暴力防止法第1条の「配偶者からの暴力」に該当するとは限りません。

内閣府男女共同参画局HP(ホームページ)
「配偶者からの暴力被害者支援情報」より
<http://www.gender.go.jp/e-vaw/dv/index.html>

Q3 ほかの人の書いた言葉や話した言葉に驚いたり、違和感を感じたことはありますか？

- ・「うざい」人の心を傷つけるような言い方がさみしい。
- ・「キモッ!」「よわっ!」「つよっ!」「はやっ!」
もう少し豊かな表現をしてほしい。
- ・「……っていうか」「チョー〇〇」「ヒミヨー」
- ・若い女の子が自分のことを「うち」と言う。関西出身でもないのに何故？
- ・若者が多用する、挨拶代わりに「お疲れさま」
- ・「勝ち組、負け組」優劣をつけて差別化したり、人を蔑視する響きの言葉を見聞きすると寒々しい気持ちに。
- ・「食べれる」「寝れる」などのら抜き言葉には、抵抗あり。
- ・「〇円からお預かりいたします」「～でよろしかったでしょうが」などのマニュアル言葉
- ・「KY」（空気が読めないの略）を聞いて驚いた。同じイニシャルの姓名の人が、気の毒。
- ・「再発防止に努めます」「遺憾に存じます」あまりに紋切り型である。
- ・「だから」という言葉。「だから、……と言ったでしょ」と相手を否定するように聞こえる。
- ・「私的には」「せっかくなしてあげたのに」「すごい可愛い」「全然いいよ」「私って～な人だから」「どうもどうも」など。

*この他にも、いろいろなお意見をいただきました。

7月10日(火) 10:00~12:00 市役所第606会議室

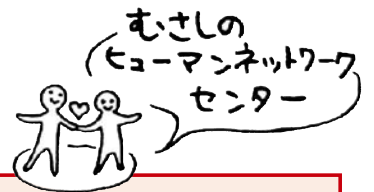


67号「手づくり、物づくり」の感想、そのほか

- ・家の中で溢れたモノの整理に追われているという記事に、共感の声が多くあった。
- ・長く海外で単身生活。山のようにたまったTシャツをはじめ、たくさんの荷物にそれぞれ愛着があり、なかなか整理、処分することができない。
- ・夫婦ともに一人暮らしの経験が長い。夫は帰りが遅くても洗濯物を畳んでくれたり、家事の分担は自然にできていると思う。
- ・年齢を重ねた女性、男性が、自然につき合い、支え合うことはすばらしいと思う。

68号「言葉づくり、想いづくり」に向けて

- ・夫との間にあまり会話は無いが、それはいちばん気を使わなくていい関係だから。家族の間では身近過ぎて、かえって言葉にできないこともある。
- ・海外でともに仕事をした女性の上司は皆、論理的で豊かな表現力を持っていた。日本でも説得力のある自己表現法を身につけられるような環境が、もっと整えばいいと思う。
- ・子どもの成長記録を遠方の(祖)父母や友人に知らせる目的などで、ブログに熱心に取り組む人は多い。育児書より参考になることもある。
- ・小学生の娘には、まだ携帯やインターネットに触れさせたくない。一方通行のメールではなく、生の言葉のぶつかり合いから「言ってはいけないこと」などコミュニケーションのルールを身につけてほしい。
- ・携帯やインターネットの使い方がかりでなく、新聞・雑誌・TVなどマスメディアから発信される膨大な情報を読み解く能力(メディア・リテラシー)を育てる教育が大切である。



今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から

● 日本語練習帳

大野 晋 著 岩波書店



どうすればよりよい文章が書けるのか、そのためにはどんなことに気をつければいいのか。「相手にわかってもらえるように努力して表現し、相手をよく理解できるようにと努力して読み、あるいは聞く」その行為が言語なのだと言語は語る。250の練習問題をやり通すことで、自分の日本語の技能や、日本語の特質、日本人の社会意識についても考える糸口がみつけれられる。単語に敏感になる練習、文の組み立て、文章の展開、敬語の基本など、日本語の理解と表現のために役に立つ一冊。

● 女の日本語 男の日本語

佐々木瑞枝 著 筑摩書房



欧米、アジア、アラブ諸国など各国の留学生に日本語を教えるうちに、日本語に隠された女と男の意味が気になり出した著者。「箱入り娘」の箱ってどんな箱? 「お転婆」は女の子だけ? 文化の異なる留学生から見ると、何気なく使っている日本語の中のどんな表現がおかしうつものだろう。留学生たちの素朴な疑問をもとに、それぞれの母国語や文化と比較することで、言葉の背景にある日本文化の特徴を考えることができるのでは。

武蔵野市境2-10-27武蔵野市政センター2階 TEL・FAX 0422(37)3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.mhnc.jp/

STAFF

- レポーター 斎藤ユリ・清水裕子 深澤美香・堀江幸夫
- 取材・編集 森 治美 (編集長) 大八木俊子・栗原恵子 戸田真帆子・浜 俊子
- ★他にもたくさんのアンケート協力員、編集協力員に支えていただいています。
- レイアウト 小井戸厚子
- イラスト 本田 倫
- 印刷 社会福祉法人東京コロニー

● 来年1月発行予定の69号は「優しい絆、仲間をつくる(仮)」をテーマに取り上げます。家族や職場など身近な人間関係から少し離れ、新しい仲間づくりをする努力を始めてみませんか。

★話し方を日々、息子たちに批判されています。「前置きが長過ぎる」「で、何が言いたいのか?」と。心地良いおばさんトークも、たまには見直してみようかな。(森治美)

★仕事を終えたときの植木屋さん同士が互いにねぎらい合う言葉が丁寧です。反省しました。「じゃーねー」や「またねー」は。(浜俊子)

★人の心を打つ言葉、人の言葉に感動できる心、どちらも素敵です。この秋は「短歌」の歌集を読んでみようと思います。(戸田真帆子)

★私の生活の範囲内では、今の流行り言葉を使う人はいない。美しい日本語をなどとは言いませんが、人に伝わる言葉を使いましょう。(栗原恵子)

★自分の内に生まれた気持ちに人を伝えたくて、エッセイ教室を受講して3年目。原稿紙のまず目は未だ埋まらない。言葉ってむずかしい。(大八木俊子)

編集後記